

決算説明資料

～2017年3月期 第2四半期～

説明会開催予定日
2016年11月7日（月）
日本ハム株式会社

目次

I. 2017年3月期 第2四半期連結業績の総括

II. 2017年3月期の見通し

※ I. II. 非継続事業の売上高、営業利益については各決算期から除いて表示しております。

III. 2017年3月期 第2四半期財務データ

※ III. 非継続事業にかかる損益については独立掲記し、前期の数値を組み替えて表示しております。

I. 2017年3月期 第2四半期連結業績の総括

1. オペレーティング・セグメント情報 第2四半期
2. オペレーティング・セグメント情報 上期
3. オペレーティング・セグメント情報 加工事業本部
4. オペレーティング・セグメント情報 食肉事業本部
5. オペレーティング・セグメント情報 関連企業本部
6. オペレーティング・セグメント情報 海外事業本部
7. 海外 主要所在地別 外部顧客売上高実績

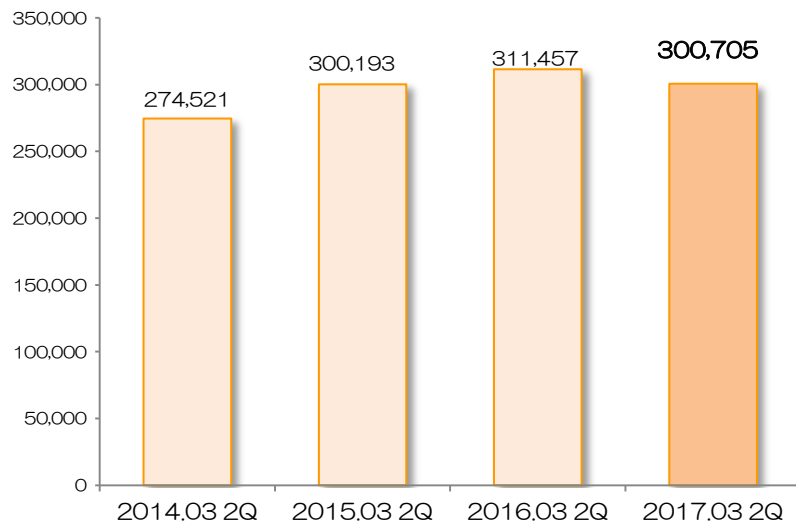
1. オペレーティング・セグメント情報 第2四半期

(単位：百万円)

		2014.03.2Q	2015.03.2Q	2016.03.2Q	2017.03.2Q	前年差	前年比 (%)
加工事業本部	売上高	84,383	87,002	86,800	87,702	902	1.0
	営業利益	1,267	541	424	2,125	1,701	401.2
食肉事業本部	売上高	165,546	183,148	189,755	186,368	△ 3,387	△ 1.8
	営業利益	3,194	7,806	9,550	11,090	1,540	16.1
関連企業本部	売上高	36,907	39,148	40,183	39,991	△ 192	△ 0.5
	営業利益	202	△ 26	244	1,016	772	316.4
海外事業本部	売上高	49,593	62,637	64,680	53,944	△ 10,736	△ 16.6
	営業利益	3,157	3,391	366	△ 25	△ 391	-
消去調整他	売上高	△ 61,908	△ 71,742	△ 69,961	△ 67,300	2,661	-
	営業利益	213	△ 150	96	△ 453	△ 549	-
連結合計	売上高	274,521	300,193	311,457	300,705	△ 10,752	△ 3.5
	営業利益	8,033	11,562	10,680	13,753	3,073	28.8

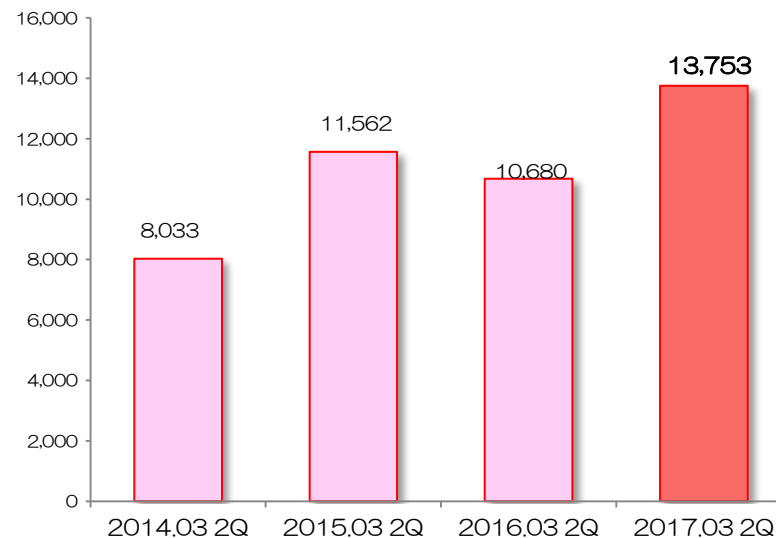
(単位：百万円)

(連結)

売上高


(単位：百万円)

(連結)

営業利益


※オペレーティング・セグメント情報のセグメント別売上高と、当資料P.23の品種別の売上高の数値とは一致しません。

※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

※海外事業本部の新設により過年度分を遡及、組替えし記載しています。

2. オペレーティング・セグメント情報 上期

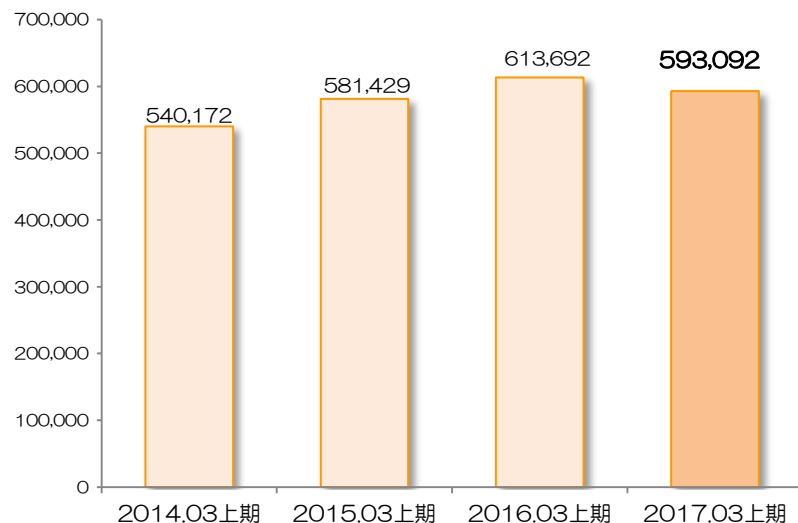
(単位：百万円)

		2014.03.上期	2015.03.上期	2016.03.上期	2017.03.上期	前年差	前年比 (%)
加工事業本部	売上高	162,818	169,557	166,404	169,090	2,686	1.6
	営業利益	2,020	1,601	452	3,236	2,784	615.9
食肉事業本部	売上高	326,553	355,469	376,935	370,661	△ 6,274	△ 1.7
	営業利益	6,782	14,005	18,653	19,419	766	4.1
関連企業本部	売上高	70,739	74,589	77,092	77,700	608	0.8
	営業利益	177	△ 67	432	1,602	1,170	270.8
海外事業本部	売上高	99,492	120,229	129,612	109,225	△ 20,387	△ 15.7
	営業利益	2,706	5,233	3,514	△ 599	△ 4,113	-
消去調整他	売上高	△ 119,430	△ 138,415	△ 136,351	△ 133,584	2,767	-
	営業利益	824	254	11	△ 226	△ 237	-
連結合計	売上高	540,172	581,429	613,692	593,092	△ 20,600	△ 3.4
	営業利益	12,509	21,026	23,062	23,432	370	1.6

(単位：百万円)

売上高

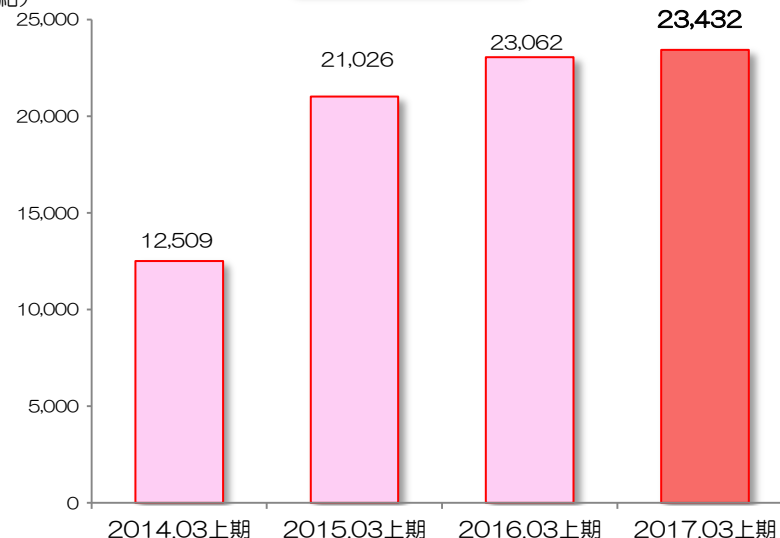
(連結)



(単位：百万円)

営業利益

(連結)



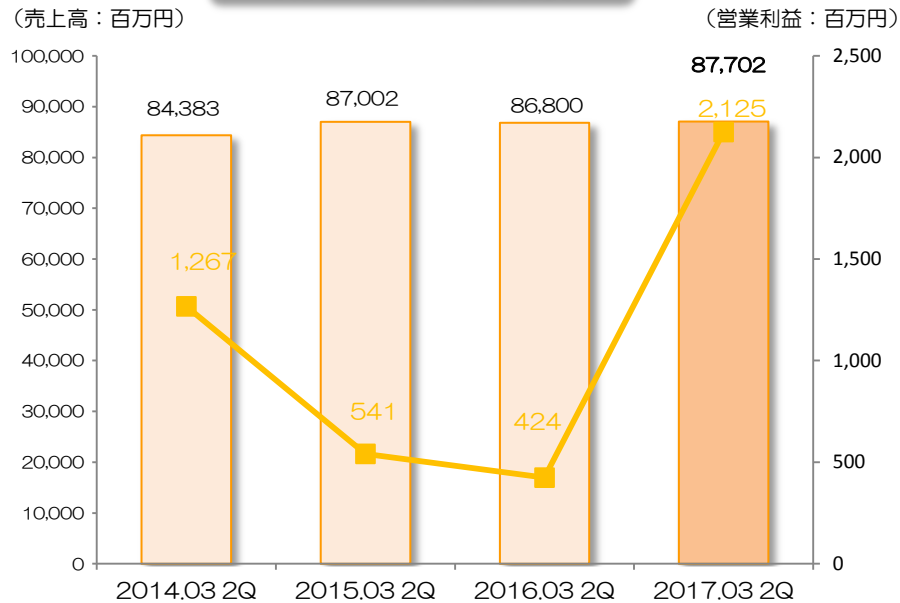
※オペレーティング・セグメント情報のセグメント別売上高と、当資料P.23の品種別の売上高の数値とは一致しません。

※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

※海外事業本部の新設により過年度分を遡及、組替えし記載しています。

3. オペレーティング・セグメント情報 加工事業本部①

第2四半期実績

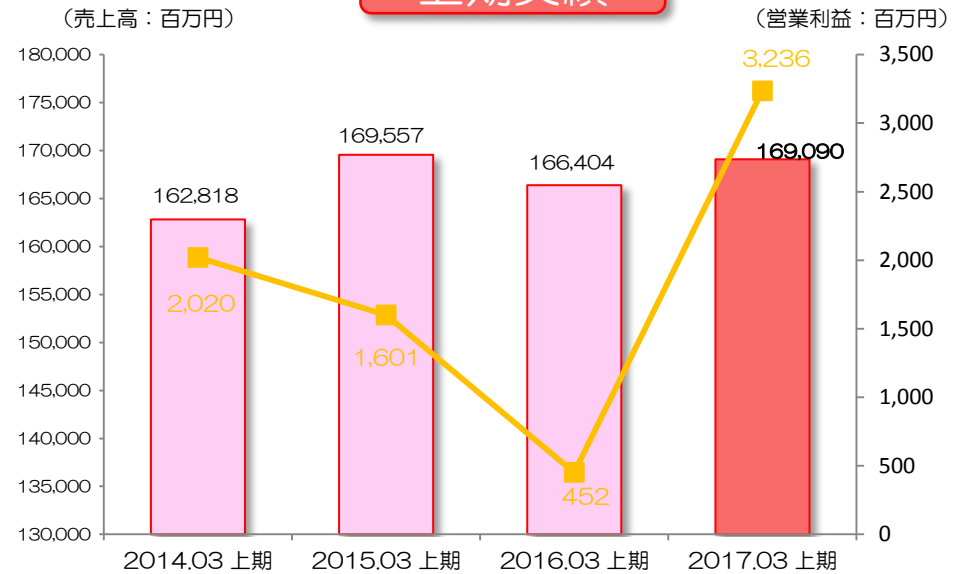


	2016.03 2Q	2017.03.2Q	前年差	前年比(%)
売上高計	86,800	87,702	902	1.0
営業利益	424	2,125	1,701	401.2
営業利益率	0.5%	2.4%	-	-

【上期売上高の状況】

ハム・ソーセージは外食チャネルにて商品導入が進み、業務用商品は回復。コンシューマ商品はシャウエッセンを中心にNB商品は回復したものの、PB商品の回復が遅れ、昨年を若干下回った。デリ商品は、コンシューマ商品の新品が好調に推移したのに加え、業務用商品もCVSチャネルでの商品導入が進み増収となった。

上期実績



(単位：百万円)

	2016.03 上期	2017.03 上期	前年差	前年比(%)
売上高計	166,404	169,090	2,686	1.6
営業利益	452	3,236	2,784	615.9
営業利益率	0.3%	1.9%	-	-

【上期営業利益の状況】

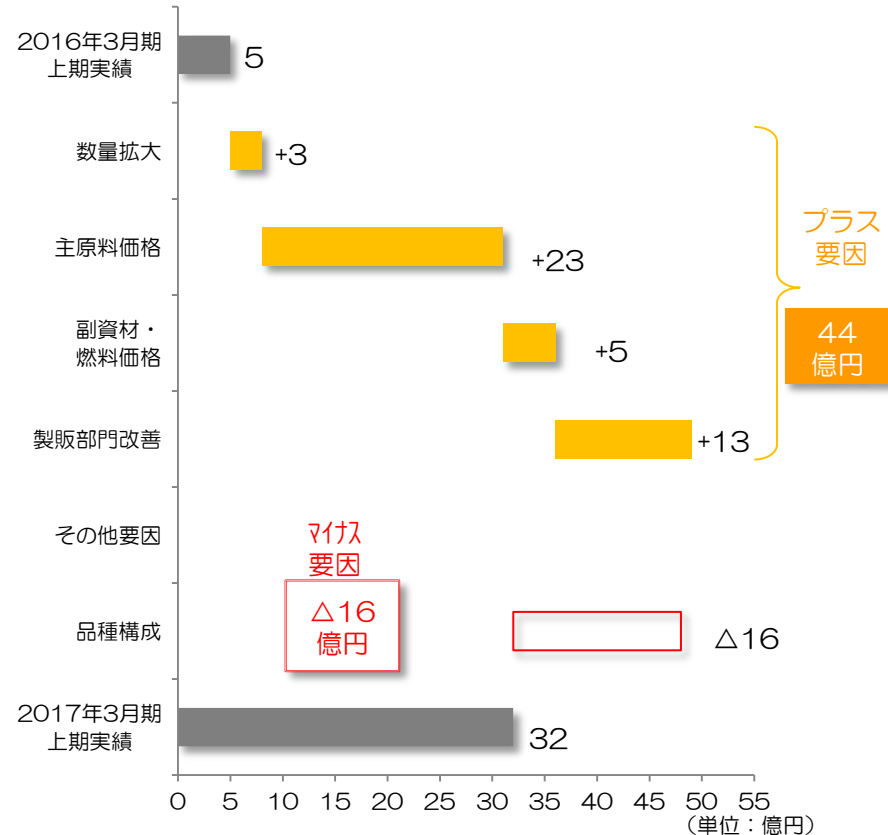
生産数量回復により、製造部門での生産性が改善した事、新品投入により粗利率が改善した事に加え、原燃料価格が好転し増益。

3. オペレーティング・セグメント情報 加工事業本部②

【営業利益増減要因分析】

	2017.03期				
	1Q 実績	2Q 実績	上期 計画	上期 実績	計画 差異
数量拡大	1億円	2億円	4億円	3億円	△1億円
利益率改善	10億円	15億円	17億円	25億円	8億円
外部要因	13億円	15億円	24億円	28億円	4億円
（内訳）主原料価格	11億円	12億円	20億円	23億円	3億円
（内訳）副資材・燃料等	2億円	3億円	4億円	5億円	1億円
内部要因	△3億円	0億円	△7億円	△3億円	4億円
（内訳）品種構成（商品リニューアル）	△7億円	△9億円	△17億円	△16億円	1億円
（内訳）製販部門改善	4億円	9億円	10億円	13億円	3億円
その他要因	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円
合計	11億円	17億円	21億円	28億円	7億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【上期営業利益実績の増減要因グラフ】


●計画差異要因分析（上期）

- 【数量拡大】・・・ハム・ソーセージコンシューマPB商品の回復が遅れ計画を下回った。
- 【製販部門改善】・・・ハム・ソーセージ、デリ商品共に販売数量が増加し、工場での生産性が向上し計画を上回った。

3. オペレーティング・セグメント情報 加工事業本部③

●ギフト売上実績（中元期）

- ・2017年3月期の実績は、
前年個数比： 97%
- ・『美ノ国』ギフトは前年個数比：101%
(構成比は、26%)

(単位：千個)

		2016.03 実績	2017.03 実績	
		個数	個数	前年比
中元 (実績)	全社販売個数	2,069	1,997	97%
	(うち美ノ国)	507	514	101%

●主要ブランド売上実績

【(参考) 主要ブランド商品売上高実績(対前年同期比)】


 好調に推移する
「シャウエッセン」

 販売堅調な
「極み焼ハンバーグステーキ」

 好調なプリフライ群を牽引する
「チキチキボン」

ハム・ソーセージ	2017.03	デリ商品	2017.03
	上期実績		上期実績
シャウエッセン	104%	石窯工房群	99%
森の薫りあらびきりウナ	83%	中華名菜群	98%
彩りキッチンシリーズ	91%	プリフライ群	105%
グルメイdstステーキ	105%	ハバ・グ・ミートボール群	113%
焼豚群	87%	カレー群	107%
コンシューマ商品計	97%	コンシューマ商品計	104%

●チャネル別売上実績

【(参考) 2017年3月期上期 チャネル別伸び率(対前年同期比)】

①コンシューマ商品

ハム・ソーセージは、シャウエッセン中心に販促を実施した事に加え、エリア対応品を投入した事によりNB商品は伸長したが、PB商品の回復が遅れ、昨年割れ。デリ商品は、ブランド商品のリニューアルや新商品投入を進め、昨年より伸長。

②業務用商品

ハム・ソーセージは、外食中心に定番商品導入が進んだ。デリ商品は、市場規模が大きいCVSチャネルで主力商品を導入し伸長。

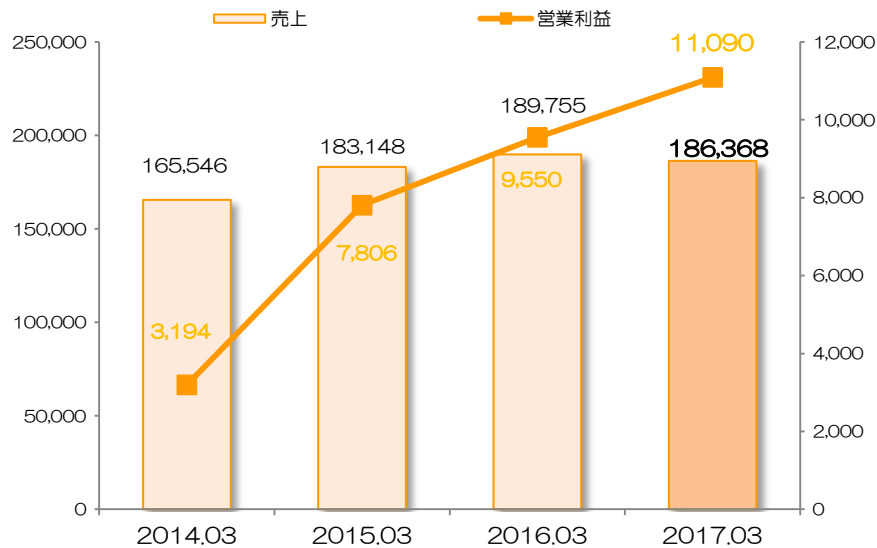
		数量	金額
ハム ・ソーセージ	ｺﾝｼﾞｰﾏ	100%	97%
	業務用	105%	106%
	合計	101%	98%
デリ商品	ｺﾝｼﾞｰﾏ	106%	104%
	業務用	105%	102%
	合計	105%	103%

4. オペレーティング・セグメント情報 食肉事業本部①

(売上高：百万円)

第2四半期実績

(営業利益：百万円)



(単位：百万円)

	2016.03 2Q	2017.03 2Q	前年差	前年比(%)
売上高計	189,755	186,368	△ 3,387	△ 1.8
営業利益	9,550	11,090	1,540	16.1
営業利益率	5.0%	6.0%	-	-

【上期売上高の状況】

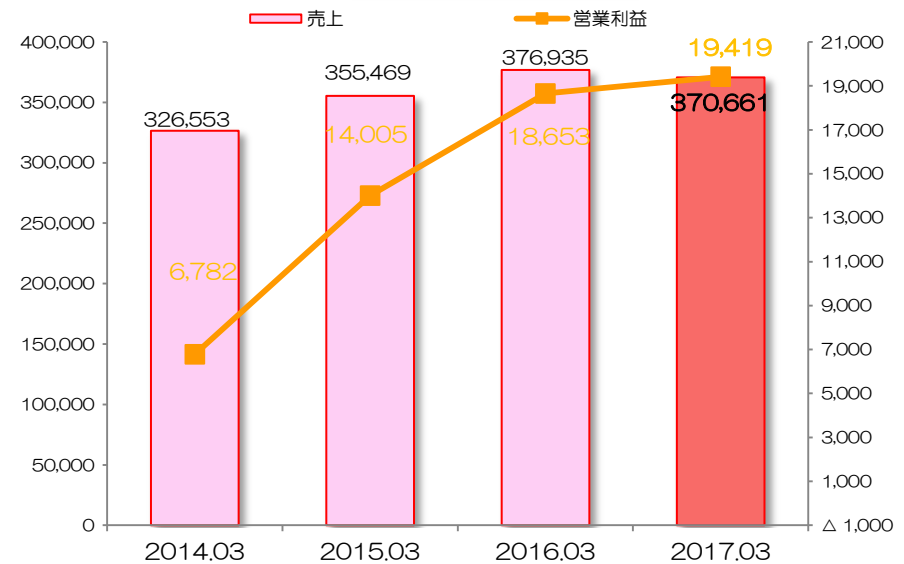
(売上高)

国産・輸入牛肉共に販売数量・金額が伸長し、全体としても販売数量が昨年を上回ったものの、鶏肉価格、特に輸入鶏肉の価格下落が大きく、減収となった。

(売上高：百万円)

上期実績

(営業利益：百万円)



(単位：百万円)

	2016.03 上期	2017.03 上期	前年差	前年比(%)
売上高計	376,935	370,661	△ 6,274	△ 1.7
営業利益	18,653	19,419	766	4.1
営業利益率	4.9%	5.2%	-	-

【上期営業利益の状況】

昨年に比べ食肉相場が落ち込んだことでファーム事業は苦戦した。一方で、米国産牛肉が市況下落により販売しやすい環境となり、輸入牛肉全体の数量拡大で利益を確保できた。

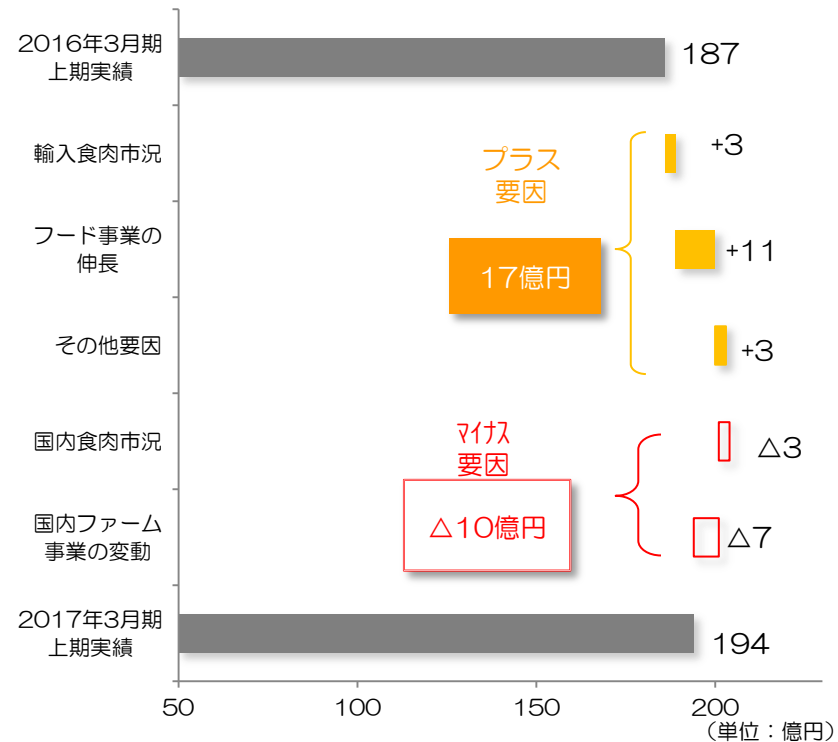
またフード会社の量販店向けブランド食肉の販売が伸長し、全体として増益となった。

4. オペレーティング・セグメント情報 食肉事業本部②

【営業利益増減要因分析】

	2017.03月期				
	1Q 実績	2Q 実績	上期 計画	上期 実績	計画 差異
輸入食肉市況	0億円	3億円	△2億円	3億円	5億円
国内食肉市況	△4億円	2億円	△6億円	△3億円	4億円
国内ファーム事業の変動	1億円	△8億円	△5億円	△7億円	△2億円
フード事業の伸長	5億円	6億円	8億円	11億円	3億円
その他要因	△10億円	13億円	△4億円	3億円	7億円
合計	△8億円	15億円	△8億円	8億円	16億円

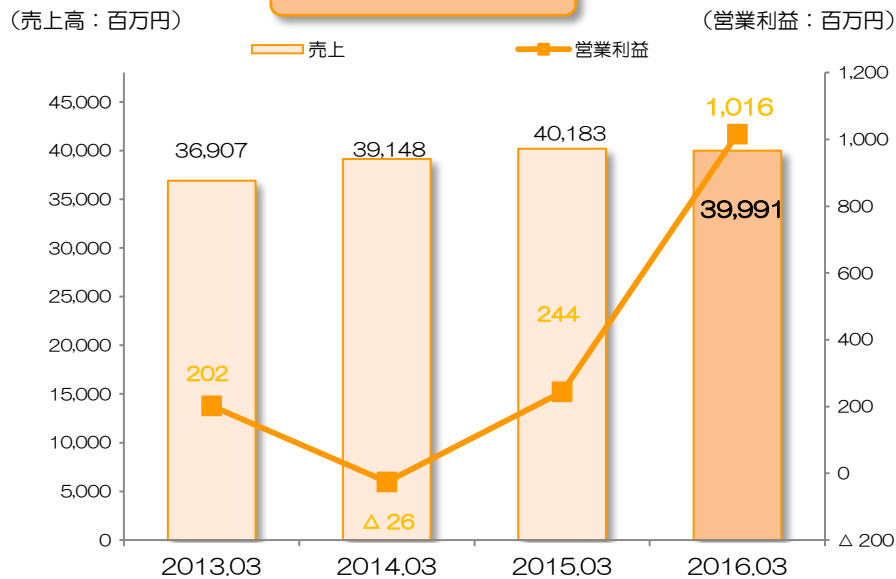
※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【上期営業利益実績の増減要因グラフ】


● 計画差異要因分析（上期）

- 【輸入食肉市況】・・・輸入鶏肉の在庫過多による市況回復遅れで苦戦したが、輸入牛肉の販売数量が伸長し計画を上回った。
- 【国内ファーム事業の変動】・・・昨年に比べ国産鶏肉市況が下落したため計画を下回った。
- 【フード事業の伸長】・・・国産・輸入品ともに牛肉の量販店向け販売が伸長し計画を上回った。

5. オペレーティング・セグメント情報 関連企業本部

第2四半期実績


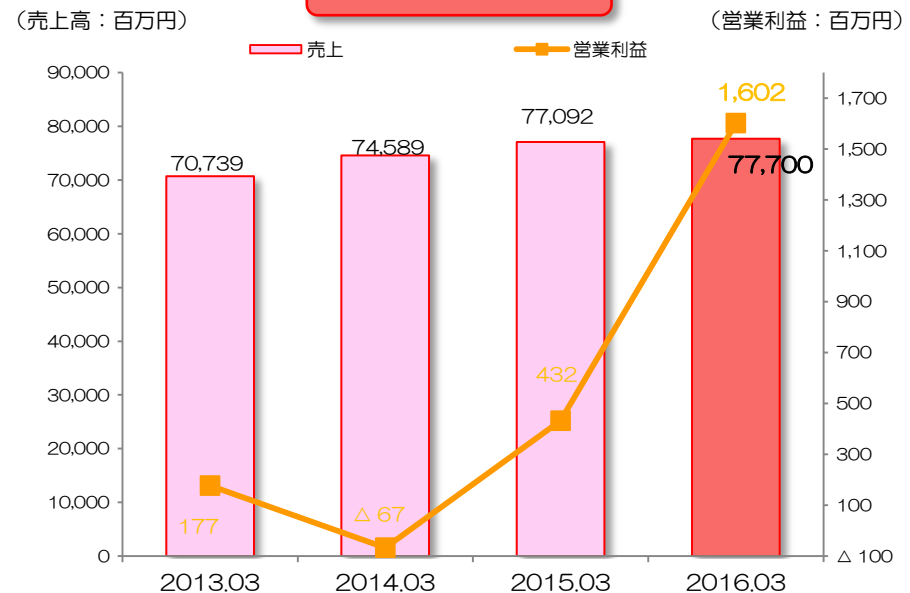
(単位：百万円)

	2016.03 2Q	2017.03 2Q	前年差	前年比(%)
売上高計	40,183	39,991	△ 192	△ 0.5
営業利益	244	1,016	772	316.4
営業利益率	0.6%	2.5%	-	-

【上期売上高の状況】

水産品は量販チャンネル向けの主力商品である寿司種に加え、自社製造商品の販売が伸長したが、原料取引が苦戦し減収。

乳製品はヨーグルト・乳酸菌飲料が量販チャンネルを中心に販売が伸長し、チーズについては主力の製パンチャンネル、外食チャンネルでの販売が好調に推移し増収。

上期実績


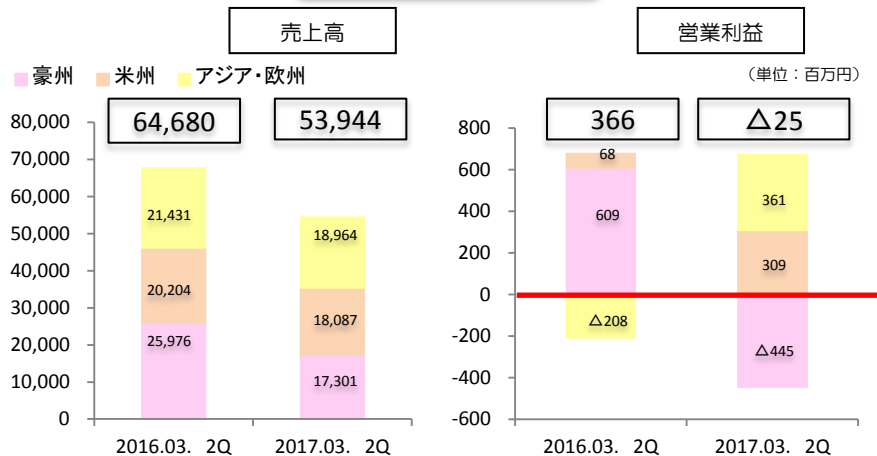
(単位：百万円)

	2016.03 上期	2017.03 上期	前年差	前年比(%)
売上高計	77,092	77,700	608	0.8
営業利益	432	1,602	1,170	270.8
営業利益率	0.6%	2.1%	-	-

【上期営業利益の状況】

水産品は自社製造商品を中心に売上が伸長した事に加え寿司種の拡販に注力した事により粗利率が改善し増益。乳製品は売上伸長と原料価格が安定した事に加え、去年はチーズ生産工場に移転による稼働率の低下があったが、通常稼働にもどったこともあり増益。

6. オペレーティング・セグメント情報 海外事業本部①

第2四半期実績


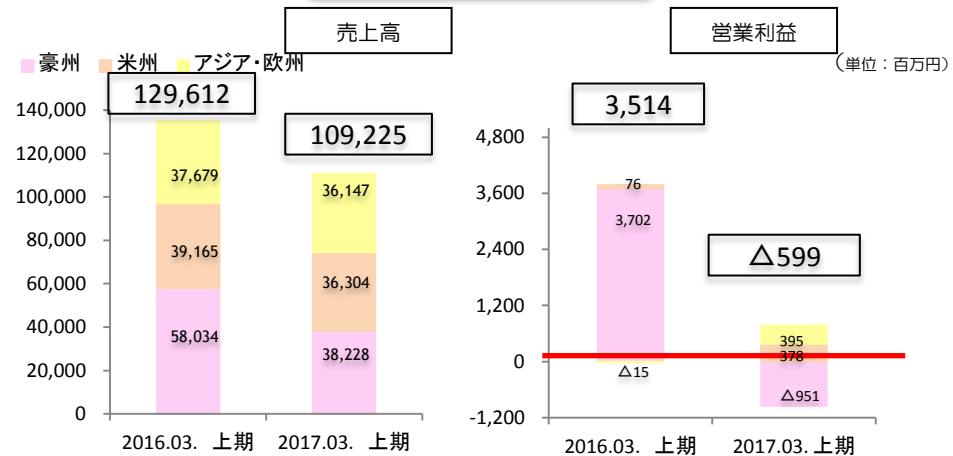
		2016.03 2Q	2017.03 2Q	前年差	前年比(%)
海外計	売上高	64,680	53,944	△ 10,736	△ 16.6
	営業利益	366	△ 25	△ 391	-
豪州	売上高	25,976	17,301	△ 8,675	△ 33.4
	営業利益	609	△ 445	△ 1,054	-
米州	売上高	20,204	18,087	△ 2,117	△ 10.5
	営業利益	68	309	241	354.4
アジア・欧州	売上高	21,431	18,964	△ 2,467	△ 11.5
	営業利益	△ 208	361	569	-

※テキサスファーム分については非継続事業の為、本資料数値からは除いて表示しております。

※売上金額、営業利益は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。(セグメント間取引の消去があるため、海外計は各地域の合計とは一致しません)

【上期売上高の状況】

- ・豪州事業
集荷難と継続する牛生体価格の高値の影響で米国向け販売が苦戦し大幅に減収。
- ・米州事業
デイルーフーズ社の売上が堅調に推移したものの、為替換算の影響も有り減収。

上期実績


		2016.03 上期	2017.03 上期	前年差	前年比(%)
海外計	売上高	129,612	109,225	△ 20,387	△ 15.7
	営業利益	3,514	△ 599	△ 4,113	-
豪州	売上高	58,034	38,228	△ 19,806	△ 34.1
	営業利益	3,702	△ 951	△ 4,653	-
米州	売上高	39,165	36,304	△ 2,861	△ 7.3
	営業利益	76	378	302	397.4
アジア・欧州	売上高	37,679	36,147	△ 1,532	△ 4.1
	営業利益	△ 15	395	410	-

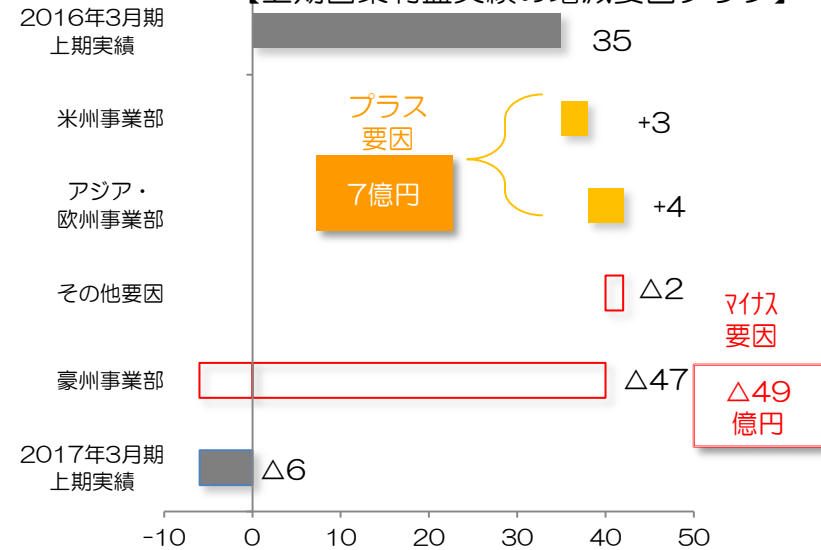
【上期営業利益の状況】

- ・豪州事業
牛生体価格が歴史的な高値で推移する中、米国産牛肉の生産回復で米国向け販売価格が回復せず減益。
- ・米州事業
デイルーフーズ社の加工食品の販売が伸長し増益。

【営業利益増減要因分析】

	2017.03月期 計画				
	1Q 実績	2Q 実績	上期 計画	上期 実績	計画 差異
豪州事業部	△36億円	△11億円	△47億円	△47億円	0億円
米州事業部	1億円	2億円	6億円	3億円	△3億円
アジア・欧州事業部	△2億円	6億円	4億円	4億円	0億円
その他要因	0億円	△2億円	0円	△2億円	△2億円
合計	△37億円	△4億円	△37億円	△41億円	△4億円

【上期営業利益実績の増減要因グラフ】



計画差異要因

●豪州事業

生体仕入れ価格の高騰が継続し、牛集荷難から工場稼働が落ち、販売面でも米国向け販売が低迷し、厳しい状況となった。

●米州事業

北米 デイリーフーズ社は堅調に推移するも、南米の水産事業で収益悪化。

●アジア・欧州事業

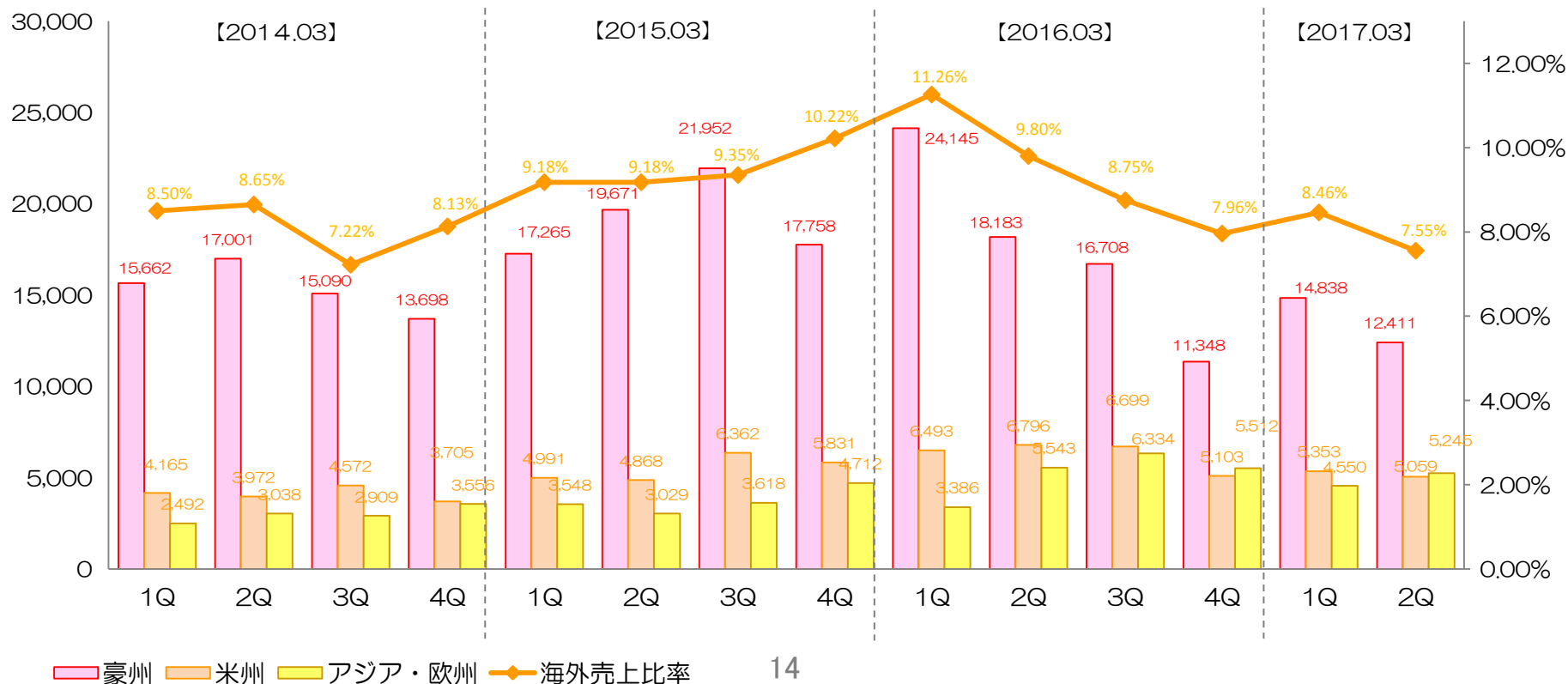
欧州からの豚肉輸出数量が伸びた事に加え、トルコ エゲタブ社が市況回復を受け業績が改善した。

7. 海外 主要所在地別 外部顧客売上高実績

(単位：百万円：%)

	2014.03	2015.03	2016.03				2017.03		
	通期	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
豪州	61,451	76,646	24,145	18,183	16,708	11,348	70,384	14,838	12,411
米州	16,414	22,052	6,493	6,796	6,699	5,103	25,091	5,353	5,059
アジア・欧州	11,995	14,907	3,386	5,543	6,334	5,512	20,775	4,550	5,245
海外計	89,860	113,605	34,024	30,522	29,741	21,963	116,250	24,742	22,713
海外売上比率	8.09%	9.47%	11.26%	9.80%	8.75%	7.96%	9.46%	8.46%	7.55%

※売上金額は、外部顧客に対する売上高です。

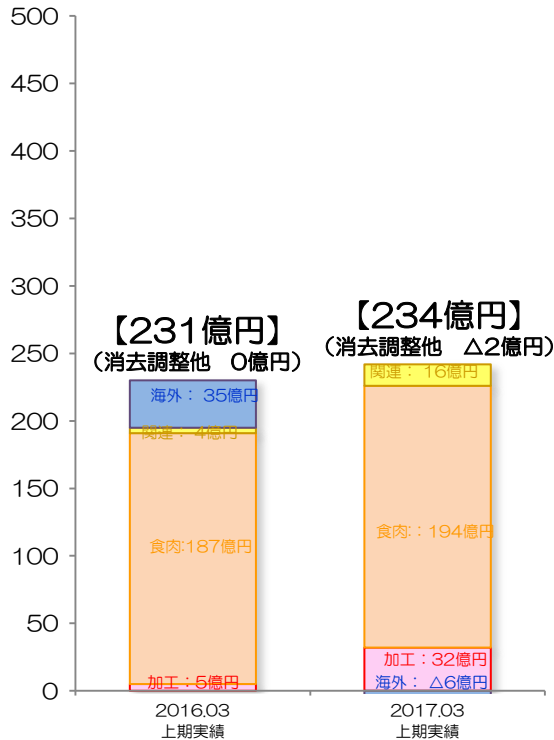


Ⅱ. 2017年3月期の見通し

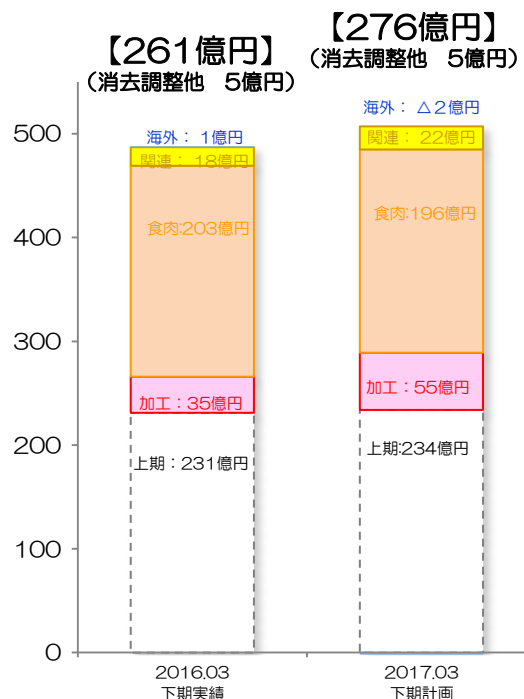
1. 2017年3月期 営業利益計画
2. 2017年3月期計画（加工事業本部）
3. 2017年3月期計画（食肉事業本部）
4. 2017年3月期計画（関連企業本部）
5. 2017年3月期計画（海外事業本部）

1. 2017年3月期 営業利益計画①

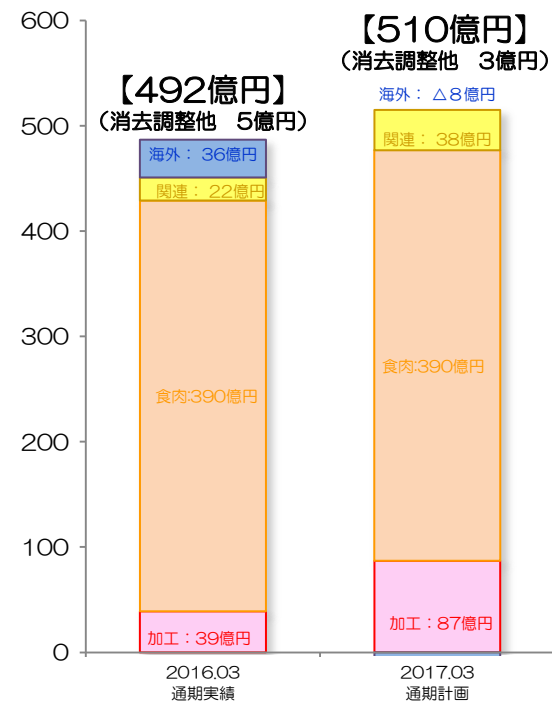
(単位：億円)



(単位：億円)



(単位：億円)



	2017.03 上期実績			2017.03 下期計画			2017.03 通期見込み		
	2016.03 上期実績	増減	2016.03 下期実績	増減	2016.03 通期実績	増減			
加工事業本部	5億円	32億円	28億円	35億円	55億円	20億円	39億円	87億円	48億円
食肉事業本部	187億円	194億円	8億円	203億円	196億円	△7億円	390億円	390億円	0億円
関連企業本部	4億円	16億円	12億円	18億円	22億円	4億円	22億円	38億円	16億円
海外事業本部	35億円	△6億円	△41億円	1億円	△2億円	△3億円	36億円	△8億円	△44億円
消去調整他	0億円	△2億円	△2億円	5億円	5億円	0億円	5億円	3億円	△2億円
合計	231億円	234億円	3億円	261億円	276億円	15億円	492億円	510億円	18億円

1. 2017年3月期 営業利益計画②

【第1Q時見直し計画との差異】

※3Q、4Q及び通期見込みについては、第2四半期後に見直した計画となっています。

	2017.03.上期実績			2017.03 3Q見込み			2017.03 4Q見込み			2017.03 通期見込み			
	非継続事業を 除く 1Q時計画		計画差	非継続事業を 除く 1Q時計画		計画差	非継続事業を 除く 1Q時計画		計画差	非継続事業 含む 1Q時計画	非継続事業を 除く 1Q時計画		計画差
加工事業本部	25億円	32億円	7億円	58億円	58億円	0億円	△3億円	△3億円	0億円	80億円	80億円	87億円	7億円
食肉事業本部	178億円	194億円	16億円	120億円	126億円	6億円	65億円	70億円	5億円	363億円	363億円	390億円	27億円
関連企業本部	15億円	16億円	1億円	19億円	20億円	1億円	△1億円	2億円	3億円	33億円	33億円	38億円	5億円
海外事業本部	△3億円	△6億円	△3億円	16億円	0億円	△16億円	9億円	△2億円	△11億円	8億円	23億円	△8億円	△31億円
消去調整他	3億円	△2億円	△5億円	△1億円	2億円	3億円	4億円	3億円	△1億円	6億円	6億円	3億円	△3億円
合計	218億円	234億円	16億円	212億円	206億円	△6億円	74億円	70億円	△4億円	490億円	505億円	510億円	5億円

【営業利益計画 増減要因分析】

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

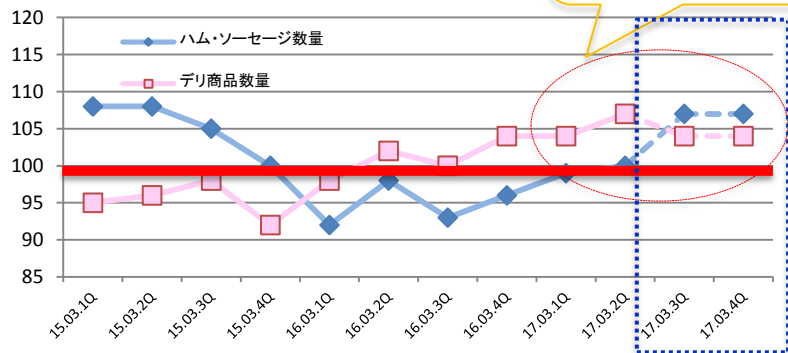
加工事業本部	期初計画との差異								
	3Q計画			4Q計画			通期計画		
	1Q時 計画		計画差	1Q時 計画		計画差	1Q時 計画		計画差
数量拡大	4億円	5億円	1億円	1億円	2億円	1億円	9億円	10億円	1億円
利益率改善	10億円	9億円	△1億円	5億円	4億円	△1億円	32億円	38億円	6億円
外部要因	9億円	9億円	0億円	7億円	5億円	△2億円	40億円	42億円	2億円
（内訳）主原料価格	7億円	7億円	0億円	3億円	3億円	0億円	30億円	33億円	3億円
（内訳）副資材・燃料等	2億円	2億円	0億円	4億円	2億円	△2億円	10億円	9億円	△1億円
内部要因	2億円	0億円	△2億円	△2億円	△1億円	1億円	△7億円	△4億円	3億円
（内訳）品種構成（商品リニューアル）	△6億円	△6億円	0億円	△4億円	△3億円	1億円	△27億円	△25億円	2億円
（内訳）製販部門改善	8億円	6億円	△2億円	2億円	2億円	0億円	20億円	21億円	1億円
その他	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円	0億円
合計	14億円	14億円	0億円	6億円	6億円	0億円	41億円	48億円	7億円

食肉事業本部	期初計画との差異								
	3Q計画			4Q計画			通期計画		
	1Q時 計画		計画差	1Q時 計画		計画差	1Q時 計画		計画差
輸入食肉市況	4億円	8億円	4億円	12億円	16億円	4億円	14億円	28億円	14億円
国内食肉市況	△6億円	△2億円	4億円	△1億円	1億円	2億円	△14億円	△4億円	10億円
国内ファーム事業の変動	△6億円	△9億円	△3億円	1億円	△4億円	△5億円	△10億円	△19億円	△9億円
フード事業の伸長	△8億円	△6億円	2億円	△12億円	△8億円	3億円	△11億円	△4億円	7億円
その他要因	1億円	△1億円	△2億円	△2億円	△3億円	0億円	△5億円	0億円	5億円
合計	△16億円	△10億円	6億円	△2億円	3億円	5億円	△27億円	0億円	27億円

2. 2017年3月期計画（加工事業本部）

● コンシューマ売上拡大施策

コンシューマ商品数量推移と下期計画



デリ商品は1Qより昨年比をクリア
 ハム・ソーセージは2Qにて昨
 比クリア。更なる拡販を図る。

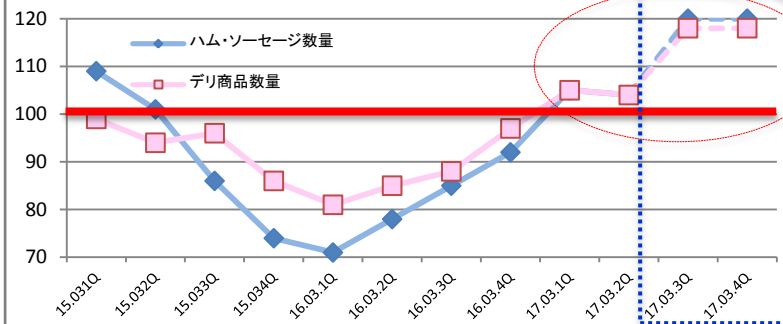
※17.03.3Q、4Qは計画値です。

- ・ 11月のTVCMを活用したシャウエッセンの更なる拡販。
- ・ 常温チャンネル、冷食チャンネル等の新たなチャンネルに対し商品の投入を強化し、拡販を図る。
- ・ 販社専売商品のアイテム増と深耕販売を実施。



● 業務用商品売上拡大施策

業務用商品数量推移と下期計画



ハム・ソーセージ、デリ商品とも今期は
 昨年をクリア。外食・CVSチャンネルにて
 定番を奪取し更なる売り伸ばしを図る。

※17.03.3Q、4Qは計画値です。

- ・ CVSチャンネルにおいてプレゼンを強化し、大型商品の導入を図る。
- ・ 外食チャンネルにおいて既存商品のブラッシュアップを実施し、大型商品の確保を図る
- ・ 外食未攻略得意先においてプレゼンを強化し、定番商品の奪取を図る。

● ギフト売上拡大施策

- ・ 歳暮は昨年比110%伸長計画。
- ・ 『美ノ国』に関しては昨年比120%伸長計画。
- ・ バラエティーニーズへの対応商品の強化。

【（参考）ギフト販売個数 2016年3月期実績と2017年3月期実績・計画】

		2016.03 実績	2017.03 実績・計画	
		個数	個数	前年比
中元 (実績)	全社販売個数	2,069	1,997	97%
	(うち美ノ国)	507	514	101%
歳暮 (計画)	全社販売個数	3,878	4,265	110%
	(うち美ノ国)	865	1,038	120%
合計 (計画)	全社販売個数	5,947	6,262	105%
	(うち美ノ国)	1,372	1,552	113%
	(構成比)	23%	25%	-

3. 2017年3月期計画（食肉事業本部）

●国内生産事業

- ・穀物相場は米国・ブラジル等での豊作を受け、弱含んでいるが年明け以降不透明な状況。
- ・豚肉に関して全国的に出荷頭数の安定が見込まれ、市況は需要増から年末にかけて上昇を見込む。
- ・鶏肉は、米国産種鶏への切替による影響が年末にかけて出始めるが、全体としては出荷羽数が昨年並みと見込む。

●国内食肉市況

- ・国産牛肉価格は、和牛は高騰しており年末にかけて上昇を見込む。
- ・国産豚肉は、下期にかけて全国的な生産安定から相場下落が見込まれる。
- ・国産鶏肉相場は年末にかけて上昇を見込むも、前年までの高値の水準には至らないと見る。

●輸入食肉市況

- ・輸入牛肉においては、米国の生産数量が回復しマーケットが拡大するも、需要増で価格は上昇を見込む。
- ・輸入豚肉においては、米国の生産が拡大する一方、デンマークは中国への販売増とデンマーク国内処理頭数の減少で注視が必要。
- ・輸入鶏肉は現地先高感から市況は上がり気味と見るが、在庫調整は年明け以降と見込む。

●食肉販売（フード会社）

- ・桜姫TVCMを10月-中四国と関東エリア、11月-北海道で展開。桜姫の数量アップにつなげる。
- ・生産の回復から輸入増が見込める米国産のチルドビーフとチルドポークの拡販を進める。
- ・外食向けの販売が昨年割れしたが、新規開拓と取引軒数拡大で補っていく。
- ・量販店向けブランド食肉の販売を強化し、安定的な取引につなげる。

4. 2017年3月期計画（関連企業本部）

●水産事業の売上拡大施策

（マリンフーズ）

北海道フェアの活用により、釧路丸水(株)の高付加価値商品の拡販を図る。
 超高圧加工機を活用したロングライフチルド商品の新商品の開発や、既存品の
 ブラッシュアップにより自社製造商品の拡販を図る。



超高圧加工機を活用した
「シーサラダ」



「青森の正直」 鯖缶シリーズ

（宝幸）

エリア攻略のTVCM放映による鯖缶詰の拡販とキャンペーン等を活用した
 八戸工場製品の拡販。

●乳製品事業の売上拡大施策

（チーズ）

ベビーチーズ、スモークチーズを中心としたコンシューマ商品の拡販を図る。
 製パン・外食チャネルを中心にスライスチーズ等の業務用商品の拡販を図る。



ロルフ
「おとなのベビーチーズ
（明太子味）」



ロルフ
「スモークチーズ」

（ヨーグルト）

スナッキング（健康的な間食文化）の提案、チアシード等のスーパーフード
 を使用した、スムージー等の健康トレンドを捉えた新商品の投入で拡販を図る。
 グループ内連携を活用した製パンチャネル等業務用商品の提案強化。



「TOPCUP
カフェヨーグルトボール」



バオパブを配合した
「ときめきカフェ
イエロースムージー」

●主原料・副資材価格動向

チーズ原料は、ヨーロッパにおいて生乳の減産があったことで価格が上昇し、
 この影響を受けオセアニアでも価格が上がる可能性が高い。
 国産脱脂粉乳は、産地の台風被害もあり減産となり上昇傾向。

5. 2017年3月期計画（海外事業本部）

●豪州事業部

- ・当面はアメリカ向けの販売の回復が見込めないため、ブランド牛を中心に豪州国内を中心に販売を強化する。
- ・仕入価格高と販売安の構図は変わらないため、処理工場の適正稼働を見極める。

●米州事業部

- ・北米の加工品、食肉・水産の現地販売の事業が好調に推移する。
- ・ドル安と米国内の牛・豚の生産数量増から日本向けの輸出の増加を見込む。

●アジア・欧州事業部

- ・引き続き欧州から日本向けの豚肉輸出は堅調に推移すると見込む。

【（参考）2017.03 2Q豪州事業販売実績】

主な販売先国	数量構成比	数量（昨年比）
日本	29%	102%
米国	13%	33%
韓国	13%	98%
中国	6%	66%
台湾	5%	82%
豪州国内	16%	96%
その他	18%	90%
合計	100%	75%

【2017年3月期 海外事業本部 営業利益増減要因と営業利益額計画】

海外事業本部	期初計画との差異									営業利益額計画					
	3Q見込			4Q見込			通期見込			3Q営業利益見込		4Q営業利益見込		通期営業利益見込	
	1Q時 計画	計画差	計画差	1Q時 計画	計画差	計画差	1Q時 計画	計画差	計画差	1Q時 計画	見込	1Q時 計画	見込	1Q時 計画	見込
豪州事業部	6億円	△8億円	△14億円	16億円	1億円	△15億円	△25億円	△53億円	△28億円	10億円	△4億円	9億円	△6億円	9億円	△19億円
米州事業部	1億円	4億円	3億円	△1億円	3億円	4億円	6億円	9億円	3億円	3億円	6億円	1億円	5億円	11億円	15億円
アジア・欧州事業部	3億円	△3億円	△6億円	4億円	3億円	△1億円	11億円	4億円	△7億円	6億円	0億円	2億円	1億円	11億円	4億円
その他要因	△2億円	△2億円	0億円	△2億円	△1億円	0億円	△5億円	△4億円	1億円	△3億円	△2億円	△2億円	△2億円	△8億円	△8億円
合計	7億円	△9億円	△16億円	18億円	7億円	△11億円	△13億円	△44億円	△31億円	16億円	0億円	9億円	△2億円	23億円	△8億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

Ⅲ. 2017年3月期 第2四半期財務データ

1. 2017年3月期連結業績概要及び通期計画
2. 販管費、その他の営業費用、その他の収益
3. 連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費
4. 連結キャッシュ・フロー

1. 2016年3月期連結業績概要及び通期計画

(単位：百万円、%)

	2016年3月期実績			2017年3月期実績及び計画								
	上期 累計実績	下期 累計実績	通期 累計実績	上期 累計実績	前年比	数量 伸長率	下期 累計計画	前年比	数量 伸長率	通期 累計計画	前年比	数量 伸長率
売上高	613,692	615,632	1,229,324	593,092	△ 3.4	-	606,908	△ 1.4	-	1,200,000	△ 2.4	-
ハム・ソーセージ	69,972	71,487	141,459	68,301	△ 2.4	0.3	75,999	6.3	9.5	144,300	2.0	4.8
加工食品	107,799	113,509	221,308	113,331	5.1	5.2	122,469	7.9	10.5	235,800	6.5	7.9
食肉	357,237	348,258	705,495	335,458	△ 6.1	4.9	329,842	△ 5.3	1.7	665,300	△ 5.7	3.3
牛肉	149,389	139,587	288,976	136,202	△ 8.8	2.9	130,298	△ 6.7	△ 4.0	266,500	△ 7.8	△ 0.4
豚肉	110,241	111,682	221,923	109,436	△ 0.7	4.7	109,964	△ 1.5	4.0	219,400	△ 1.1	4.3
鶏肉	84,892	85,496	170,388	77,297	△ 8.9	6.5	77,003	△ 9.9	2.7	154,300	△ 9.4	4.5
その他食肉	12,715	11,493	24,208	12,523	△ 1.5	4.4	12,577	9.4	5.6	25,100	3.7	5.0
水産	45,191	49,513	94,704	43,527	△ 3.7	△ 10.3	48,373	△ 2.3	△ 9.5	91,900	△ 3.0	△ 9.9
乳製品	15,856	15,540	31,396	16,473	3.9	6.0	16,527	6.4	8.2	33,000	5.1	7.0
その他	17,637	17,325	34,962	16,002	△ 9.3	-	13,698	△ 20.9	-	29,700	△ 15.1	-
売上原価	503,351	502,295	1,005,646	481,159	△ 4.4							
売上総利益	110,341	113,337	223,678	111,933	1.4							
売上総利益率	18.0%	18.4%	18.2%	18.9%	-							
販売費及び一般管理費	87,279	87,192	174,471	88,501	1.4							
営業利益	23,062	26,145	49,207	23,432	1.6		27,568	5.4		51,000	3.6	
税引前利益	22,146	13,163	35,309	21,870	△ 1.2		25,130	90.9		47,000	33.1	
非継続事業の損益	△ 1,403	△ 1,827	△ 3,230	△ 12	-		0	-		0	-	
当社株主帰属当期純利益	15,366	6,413	21,779	14,749	△ 4.0		17,751	176.8		32,500	49.2	

＊米国会計基準を組替えて表示しております。

2. 販管費、その他の営業費用、その他の収益

(単位：百万円、%)

	《販管費》	2016年3月期	2017年3月期		
		上期実績	上期実績	対前年増減率	対前年増減額
★①	販売費および一般管理費	87,279	88,501	1.4	1,222
	人件費	33,777	34,363	1.7	586
	広告宣伝費	5,965	5,664	△ 5.0	△ 301
★②	物流費	26,057	26,481	1.6	424
	その他	21,480	21,993	2.4	513

主な増減要因

★① 販管費

売上高販管費率は 14.2%から 14.9% へと 0.7ポイント上昇。

★② 物流費

食肉等販売数量増加により物流費が約4億円増加。

(単位：百万円)

	2016年3月期	2016年3月期	2017年3月期	
	上期実績	通期実績	上期実績	対前年同期増減
その他の営業費用及び(△収益)-純額	398	11,849	791	393
固定資産関連	398	11,858	704	306
その他	-	△ 9	87	87
★① その他の収益及び(△費用)-純額	187	△ 665	△ 171	△ 358
受取利息・配当金	564	1,031	543	△ 21
為替差損益	△ 279	△ 1,706	△ 1,192	△ 913
その他	△ 98	10	478	576
支払利息	705	1,384	600	△ 105

主な増減要因

★① その他の収益及び(△費用)-純額

為替差損益などで約4億円悪化。

3. 連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

(単位：百万円、%)

《連結貸借対照表》		2016年3月期 期末実績	2017年3月期 第2四半期実績	対前期末 増減率	対前期末 増減額
★①	資産合計	682,855	690,956	1.2	8,101
	現金及び現金同等物	67,321	83,246	23.7	15,925
★②	売上債権	128,285	127,611	△ 0.5	△ 674
★③	棚卸資産	133,518	131,303	△ 1.7	△ 2,215
	有形固定資産	264,014	267,585	1.4	3,571
	投資及びその他の資産	40,515	41,101	1.4	586
	長期繰延税金資産	9,321	9,089	△ 2.5	△ 232
	負債合計	321,495	327,187	1.8	5,692
	支払手形及び買掛金	94,276	101,226	7.4	6,950
★④	有利子負債	154,583	153,256	△ 0.9	△ 1,327
	退職金及び年金債務	14,426	14,790	2.5	364
	当社株主資本	356,353	359,357	0.8	3,004
	非支配持分	5,007	4,412	△ 11.9	△ 595
	資本合計	361,360	363,769	0.7	2,409

主な増減要因

- ★① 資産合計 ②③を含めて約81億円の増加。
- ★② 売上債権 食肉販売単価下落により前期末比、約7億円の減少。
- ★③ 棚卸資産 食肉在庫等圧縮により前期末比、約22億円の減少。
- ★④ 有利子負債 リース債務減少等で前期末比約13億円の減少。

(単位：百万円、%)

《設備投資額、減価償却費》	2016年3月期	2017年3月期		2017年3月期	
	上期実績	上期実績	対前年増減率	対前年増減額	通期計画
設備投資額	18,651	15,770	△ 15.4	△ 2,881	52,000
生産設備	9,586	8,635	△ 9.9	△ 951	20,900
販売・物流設備	1,559	1,949	25.0	390	8,900
ファーム・処理設備	2,518	2,214	△ 12.1	△ 304	10,100
海外事業設備	1,773	1,828	3.1	55	6,100
その他設備	3,215	1,144	△ 64.4	△ 2,071	6,000
減価償却費	9,519	9,814	3.1	295	20,000

4. 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

《連結キャッシュ・フロー計算書》	2016年3月期	2017年3月期		2017年3月期 通期計画
	上期実績	上期実績	対前年増減額	
営業活動キャッシュ・フロー	13,179	33,640	20,461	58,500
★① 投資活動キャッシュ・フロー	△ 31,628	△ 6,769	24,859	△ 38,600
★② 財務活動キャッシュ・フロー	21,236	△ 8,622	△ 29,858	△ 7,400

主な増減要因

★① 投資活動キャッシュ・フローの主な内訳

	2016年3月期	2017年3月期	
	上期実績	上期実績	対前年増減額
事業の取得売却	△8,563	5,372	13,935

★② 財務活動キャッシュ・フローの主な内訳

	2016年3月期	2017年3月期	
	上期実績	上期実績	対前年増減額
現金配当	△ 9,411	△ 6,744	2,667

お問合せ先

〒141-6014 東京都品川区大崎2-1-1
ThinkPark Tower 14階
日本ハム株式会社 広報IR部
電話：03-4555-8024
FAX：03-4555-8189

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。従って、これら業績見通しのみで全面的に依拠することはお控え頂きますようお願い致します。また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おき下さい。